

## 準備品

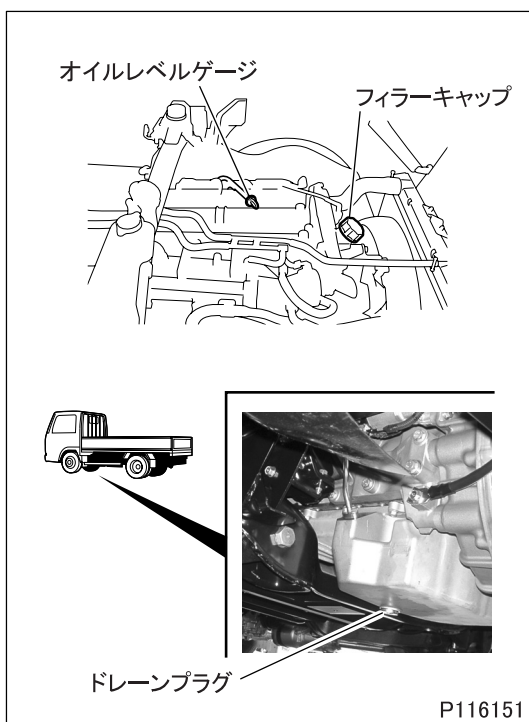
## ■油脂類

△a: ふそうエンジンオイル(ふそうエンジンオイル DH-2, スーパーDH-2)

## 交換要領

## △注意

- エンジンオイルは、必ず指定のエンジンオイルを使用する。指定以外のエンジンオイルを使用すると、DPF が早期に目詰まりを起こしてしまう。
- こぼれたエンジンオイルは、火災の危険があるのでよくふき取っておく。
- やけどをするおそれがあるので、高温になったエンジンオイルの取扱いには注意する。
- 作業中エンジンオイルをベルトに付着させない。エンジンオイルが付着するとベルトがスリップし、冷却効果低下の原因となる。
- エンジンオイルの交換時期をエンジン ECU で計算しているため、エンジンオイル交換後は、必ずエンジン ECU をリセットする。



## ■排出：エンジンオイル

- エンジンが冷えている場合は、暖機運転をする。この場合、エンジンオイルを約 40℃程度まで上昇させる。(エンジンオイルを 0℃付近から 40℃程度まで上昇させるのにアイドリング状態で約 20 分を要する。)暖機運転を行わないと、オイルフィルタ側のエンジンオイルが排出できない。
- フィラーキャップを取外す。

## △注意

- フィラーキャップを取外した後、エンジンケース内に異物等が入らないようにする。

- ドレーンプラグを外し、エンジンオイルを排出する。

## ■給油：エンジンオイル

- ドレーンプラグに新品のガスケットを取付け、ドレーンプラグを取付ける。

締付けトルク	20N・m {2.0kgf・m}
--------	------------------

- フィラーキャップから新しい△aを給油する。

△a: ふそうエンジンオイル(約 6.2dm<sup>3</sup>{6.2L})

## △注意

- フィラーキャップからエンジンキャップからエンジンオイル給油の際は、エンジンオイルがこぼれてベルト等に掛からないようにジョッキを用いて給油する。
- ベルト等にこぼした場合は、ウエス等で素早く拭き取る。